

2024年8月20日

各位

会社名 株式会社インフォネット
代表者名 代表取締役社長執行役員 日下部 拓也
(コード番号: 4444 東証グロース)
問合せ先 経営企画室 平塚 友香
(TEL. 03-5221-7591)

2025年3月期 第1四半期決算に関する質疑応答集

当社の2025年3月期第1四半期決算に関して、当社で想定しておりました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想、および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層高めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

Q 1. 今期、前期比 23.3%の増収計画に対し、第1 Qでは、前年同期比 8.7%の増収に留まっています。社内計画に対する1 Qの評価と第2 Q以降に見通しについて、教えてください。

A 1. 今期は、前期同様以上に四半期ごとに業績を伸長させる計画となっており、第1 Qは社内計画に沿った業績獲得ができました。当社ビジネスがBtoBある特性上、顧客企業のIT関連投資は、4月の動きは少なく、年度末に向けての動きが大きくなる中においては、堅調なスタートとなっております。

Q 2. 売上総利益の増加の要因について教えてください。

A 2. 当社は、売上の約60%がストック収入であり、四半期単位でストック比率は、上昇しています。利益率の高いストック収入が積み上げるビジネスモデルをとっておりますので、今後も売上総利益は上昇することを見込んでおります。また、2022年3月期より受注・開発体制の抜本的な見直しを行い、各案件単位でしっかりと利益を獲得するための社内フローを構築したことにより、売上総利益率についても安定した水準を保っています。

Q 3. 昨年の第1 Qでは、1,800万円の黒字でしたが、当第1 Qでは100万円の赤字になっています。この要因について教えてください。

A 3. 期初に当たる4月～6月は、新たな人材を迎える時期でもあり、今期においては、継続課題である人員強化が進んだため、前年同期比で見ると人材関連費用が増えていることがひとつの要因です。また、当

社の成長戦略として遂行しているM&A関連費用が第1Qで生じたことにより、前年同期比では利益が減少しました。一方、人材、M&Aは、今後の売上、グループ成長のためには好進捗となっておりますので、第2Q以降の業績拡大につなげていきます。

Q4. 前年同期と比べ、受注残が積み上がっていません。要因と対策を教えてください。

A4. 要因は、前年の第4Qにおいて受注残が大きく積み上がったことが要因です。その反動という要素はありますが、営業面での改善ポイントも明確になっておりますので、第2Q以降は、増加トレンドへと変化できる見込みです。

以 上